

委員会調査(研修)報告書

NO.

令和 6年 4月 23日

胎内市議会議長

小野 徳重 様

(報告者) 厚生環境常任委員会
委員長 渡辺 栄六

厚生環境常任委員会閉会中所管事務調査 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 6年 4月 19日 至 令和 6年 4月 19日 泊 日 (1日間)	調査・研修 場 所	・胎内市船戸地区予定地 ・新発田広域エコパーク
調査・研修 事 項	① 一般廃棄物最終処分場予定地について ② 新発田広域エコパークの現状等について		
調査・研修 出席者(参加者)	小野徳重 渡辺栄六 羽田野孝子 丸山孝博 渡辺宏行 薄田智 坂上清一 渡辺秀敏 八幡元弘		
相手方(対応者)	「胎内市船戸地区予定地」 胎内市市民生活課長 宮崎 博 「新発田市広域エコパーク」 新発田地域広域事務組合 業務課参事 諸橋英明		

調査の結果または概要

「胎内市船戸地区予定地」では、道路脇にたち処分場の計画について説明を聞いた。供用開始は令和 11 年 4 月、工事期間は令和 9・10 年度、埋立量は 90,000 m³、埋立期間は 15 年間、処理水は 90 m³/日、調整槽容量は 4,500 m³、胎内市公共下水道へ放流するとの説明であった。

「新発田市広域エコパーク」では埋立処分地の現場作業を視察して、浸出水処理施設の限外膜ろ過装置・活性炭吸着塔・キレート吸着塔等を視察して会議室で説明を受けた。工事期間は平成 11、12 年度、埋立容量は 197,700 m³、埋立期間は 15 年間、処理水は 100 m³/日、予備貯留槽 2,500 m³、汚水を浄化して今泉川排水路へ放流している。埋め立て期間がすでに経過しているが、人口減・ごみの減量化により予定より延長して使用されていた。

調査の所見・感想

「胎内市船戸地区予定地」の現地調査は地図を見ながら現地に立ってみたが、国道に近く、奥まっていない地区だった。道路わきに隣接地権者のごみ捨場処分場反対の看板が設置されていた。

「新発田市広域エコパーク」では、焼却残さ・不燃残さを埋立地に入れる時、灰が飛散しないよう土をかぶせて対策をとっていた。汚水の地下浸透を防ぐためサンドマット・不織布・2重シート張り等が施されていた。浸出水処理施設では、活性炭吸着塔やキレート吸着塔等を通して浸出水が浄化されていた。埋立期間が延長されていたが、今後さらに焼却ごみを減少するよう対策が求められていると感じた。

相手方の名刺添付欄